

薬史レター

日本薬史学会

J S H P



第 95 号

2025 年 9 月

日本薬史学会 2025 年会のご案内(その 2)

日本薬史学会 2025 年会(静岡) 年会長 桐原正之

2025 年会の開催地・静岡は、徳川家康公終焉の地であり、薬に対して深い関心と実践を持っていた家康公の存在が、薬史的にも重要な意味を持ちます。本年会では、一般講演(口頭・ポスター)のほかに、薬の歴史とその社会的・科学的意義を広い視野から捉えた特別講演を 2 件予定しております。

「含フッ素医薬品の開発史

～毒矢からブロックバスターまで～

井上宗宣先生(相模中央化学研究所・所長)

「世界史を変えた薬」

佐藤健太郎先生(サイエンスライター)

いずれも、薬の持つ力が個人の健康だけでなく社会や歴史そのものを動かしてきたことを再認識させてくれる内容であり、多くの示唆を得られるものと期待しております。また、10月5日(日)には、「薬史ツアー」として、久能山東照宮、可睡斎、油山寺、澤野医院記念館など、薬と信仰、医療文化が交差する静岡県内の名所を巡ります。徳川家康公ゆかりの地や、地域医療の歴史に触れることで、薬史研究に新たな視座を加える機会となることでしょう。

本年会は、静岡理工科大学静岡駅前キャンパスを会場として、交通の便にも優れており、多くの皆様に気軽にご参加いただける環境を整えております。

情報交換会も含め、会員同士の親交を深め、世代や領域を越えた知的な交流の場となるよう、鋭意準備を進めております。

多数の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

【参加登録】

＜事前参加の締切＞ 2025 年 9 月 19 日(金)

ホームページから参加登録(Word) ファイルをダウンロードして必要事項を上書きした後、大会事務局宛、電子メールに添付して送信ください。

(<https://plaza.umin.ac.jp/yakushi/event/nenkai/>)

ファイル名、メールの件名は、参加登録・参加者の氏名、としてください(例: 参加登録・桐原正之)。

◎大会事務局、電子メールアドレス

tetlet877@gmail.com

事前の参加費支払いは、銀行口座への振替・振込でのお支払いとなります。現金での支払いはできません。

事前参加登録期限以降は、当日料金となり、現金での対応のみとなります。

当日の受付の混雑を避けるためにも、事前参加登録にご協力をお願いいたします。

【年会参加費】

薬史学会会員および共催・協賛・後援学協会正会員：
5,000円(当日6,000円)

非会員：6,000円(当日7,000円)

学生・大学院生：無料

【情報交換会】

日 時：2025年10月4日(土)

会 場：学会終了後に同じ場所(静岡理工科大学静岡キャンパス)で開催予定

参加費：4,000円(当日5,000円)

学生・大学院生：1000円

【薬史ツアー（静岡駅出発、掛川駅解散）】

日 時：2025年10月5日(日)

久能山東照宮、浮月楼・徳川慶喜屋敷跡、

医王山薬王院油山寺、袋井市澤野医院記念館

参加費：11,000円(昼食代込) * 事前申し込みのみ

本年度の薬史ツアーは、出発地と解散地が異なっておりますので、ご注意ください

【銀行口座への振込でのお支払い】

* 恐れ入りますが、振込み手数料はご自身のご負担にてお願い致します。

銀 行 名：静岡銀行

支 店 名：袋井支店(店番号325)

口座種類：普通

口座番号：0950491

口座名称：日本薬史学会2025 年会実行委員会

口座名称：ニホンヤクシガツカイニセンニジユウゴ
ネンカイジツコウイインカイ

【日本薬史学会 2025 年会（静岡）実行委員会メンバーおよび事務局】

・年 会 長：桐原正之

(静岡理工科大学理工学部教授)

・実行委員：小土橋陽平

(静岡理工科大学理工学部教授)

・実行委員：鎌田 昂

(静岡理工科大学理工学部准教授)

・大会事務局

静岡理工科大学・桐原研究室内

日本薬史学会2025年会(静岡)事務局

〒437-8555 静岡県袋井市豊沢2200-2

TEL：0538-45-0166

FAX：0538-45-0110

e-mail：tetlet877@gmail.com

理事就任のご挨拶

桐原正之

このたび、日本薬史学会理事を拝命し、併せて2025年会の開催を静岡でお世話させていただくこととなりました。現在、静岡理工科大学理工学部にて、有機化学・有機合成化学を専門に教育・研究に従事しております。大学学部時代には、かつて本学会会長も務められた故・山川浩司先生(東京理科大学名誉教授)のご指導のもとで学び、在学中から化

学史や薬学史にも強い関心を抱いてまいりました。専門分野とは異なる視点から薬学の歴史に触れることは、現代の科学をより深く理解する上でも重要であると感じております。微力ではございますが、本学会のさらなる発展に貢献できますよう誠心誠意努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

日本薬史学会最優秀発表賞を受賞して

二松学舎大学文学研究科博士後期課程2年 山形 悠

この度は最優秀発表賞を賜り、誠にありがとうございます。大変光栄に存じます。

本発表では朝鮮だけでなく、戦前の日本・台湾・朝鮮における伝統医学の復興運動の変遷および漢医(医生)を取り巻く法令・環境の差異について述べたものになります。これまで大日本帝国の伝統医学に関して日本・台湾・朝鮮を総合的に扱って考察したものは見かけたことがなかったので、従来に無かった視座を提供することで漢方史に微力ながら貢献ができたものと感じています。私自身も、医薬はその土地の歴史や文化、さらには社会的背景によって大きく異なるということを研究・発表を通じて学ばせていただきました。検討すべき課題はまだ残っておりますので、今後とも精進して取り組んで参ります。

受賞につきましては、決して私一人の力によるものではなく多くの先生方のご支援の賜物であると理解しております。特に日本薬史学会の柳澤波香先生、辰野美紀先生に熱心にお声がけいただいたことが、学会への入会、そして今回の発表に繋がりました。この場をお借りして感謝の意を表させていただきます。

誠に恐縮ではありますが、自分自身のことについて述べさせていただきます。私が歴史研究を始めたのは大学院に入学してからになります。まだ右も左も分からない中ではありますが、最近感じていることは、東京において医史学・薬史学研究を進めるための拠点となるべき施設が少なくなりつつあるという点です。漢方・鍼灸の専門誌であった『医道の日本』が休刊となり、北里大学から医史研がなくなり、順天堂大学から日本医史学会が移転したことは私にとってショックであり、長い歴史の中で培われてきた研究拠点の一部が変化するという事実に驚きました。

また、これまで私が勤めてきた薬局業界を振り返ってみても薬剤師達の中で薬史学の認知度や理解が十分に得られていないと感じます。今後の薬史学のさらなる発展のためには、薬史学を広め、会員数を増やす取り組みが重要かと考えております。学問の探求はもちろんのこと、先生方からさまざまな面で学ばせていただきながら、より一層薬史学を盛り上げられるように努力して参ります。若輩者ではございますが、今後ともご指導・ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

日本薬史学会優秀発表賞を受賞して

近畿大学薬学部 坂東桜羽

この度は、大変光栄な賞をいただき誠にありがとうございます。まさか研究を始めたばかりである学生の自分が受賞するとは思っていませんでしたので、驚きを隠せません。そもそも、この研究を始めた当初、学会で発表すること自体発想にございましたので、皆様の前で発表したことさえ未だに実感がないほどです。私がこの学会で発表できたのは、多くの方々のご協力があってこそです。この

場をお借りして、改めて感謝申し上げます。

研究開始当初は生薬の知識が乏しく、修治、標本とは、など基本的な用語から躓き、質問ばかりで遠藤教授、高浦講師をはじめ関わっていただいた方々のお手を煩わせてばかりでした。また、ペニックス標本を所蔵している場所は近畿大学の他に武田薬品京都薬用植物園しか知られてないうえに資料数は多くはなく、限られた情報から考察することが困難でした。標本を科ごとにまとめ、考察するために、当時

の分布や特徴、流通などの情報を様々な本から収集したのですが、意外にも体力勝負を強いられ精神的にも一番の山場でした。しかし、その分結果が出た際の爽快感は格別で、大きな達成感を得られました。現在も知識不足な点は変わりませんが、以前よりも、知識を持ち併せた同学の学生や、全く知識のない知人などの他者に説明できることが増え自信となり、研究のモチベーションアップにつながっております。

ります。加えて、生薬標本は日常生活において関わることがほとんどないので、実物を見ているだけで非日常を体験でき、研究をより楽しく興味深いものへと昇華してくれています。自身の実力不足で苦しむことはありますが、そのなかでも結果がひとつ、またひとつと出てきた時の喜びを糧に、今後も研究を続けていきたいです。

2024年度日本薬史学会優秀発表賞を受賞して

横浜薬科大学客員教授 武田収功

このたびは、2024年度日本薬史学会優秀発表賞を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

老いてなお学ぶ楽しみの中で、このような思いがけない栄誉に浴し、驚きと感謝の念を抱くとともに、喜びをかみしめております。

私は大学の定年退職後、古代史を学ぶ機会を得ることが出来ました。なかでも神話に強く惹かれたのは、神話が社会の秩序や価値観を人々に示す役割を持つと同時に、当時の社会状況や権力関係をも映し出していると考えたからです。神話の「深層」には、政治的対立や建国の正当性といった要素が、比喻や象徴というかたちで表現されている可能性があり、その背後には科学的な視点が必要とされる興味深い世界が広がっていることに関心を持ちました。

今回受賞しました「天岩戸」神話と大麻の科学：Cannabidiol (CBD) から Δ^9 -Tetrahydrocannabinol (THC) への熱変換反応が示唆する古代人の知恵—では、「天岩戸」神話に描かれたアマテラスの岩戸隠れという暗黒の世界が、ヤマト王権の政治的危機や

自然災害の象徴であると同時に、科学の一面を理解する重要な手がかりであることを論じました。『古事記』と『日本書紀』の著者たちは、神話を歴史的事実の象徴として物語に織り込みました。「天岩戸神話」では、アメノウズメが神憑りとなって狂喜乱舞し、神々もまた高揚した状態にあったと記されています。その場面では、櫛に飾られた神聖な大麻の幣帛(へいはく)が篝火に投げられるという情景が浮かび上がります。これは、古代のスキタイ人が加熱した大麻から生じた幻覚性物質(向精神薬)を吸煙し、幻覚を体験していたという歴史的事実とも通じるものであり、「天岩戸」神話の描写を科学的に説明する一つの仮説になり得るかもしれません。神話の中に科学的意義を見出すことは容易ではありませんが、そこに歴史の真実が明らかになるとき、新たな視点からの発見がもたらされる可能性があります。

このような研究の成果を評価していただき、誠にありがとうございました。

武田収功先生には、2025年8月2日(土)に開催された柴田フォーラムにて、更に発展した内容で1時間の御講演をいただきました。

柴田フォーラム講演録は薬史学雑誌に掲載予定です。

(齋藤充生)

中部支部だより

令和6年度(2024年度)日本薬史学会中部支部例会・講演会の報告と 令和7年度の案内

中部支部長 河村典久

日 時：2025年2月15日(土) 14:00～17:45

場 所：ウインクあいち(1106室)

●例会 飯田事務局長の司会

- ・令和6年10月19日の奥田潤先生のご逝去に対して黙祷
- ・帝京大学での薬史学会2024年会の報告
- ・最近の薬史学会の情報報告

参加者：桐原正之、夏目葉子、稲垣裕美、森田宏、
牧野利明、齋藤充生、野々垣常正、飯田耕太郎、加藤宏明、森ちよ、豊田行康、河村典久の12名(敬称略)

●講演会：

3名の講演は3時間半に及び、それぞれ質疑応答が行われ、建設的な意見交換が行われた。

演題①：「澤野医院記念館に残された医薬品・医療器具」

○桐原正之、小栗勝也(静岡理工科大学)

(概要)澤野医院館に残された各種の器具などの紹介

演題②：「薬学史研究者 奥田潤の見たインド」

○夏目葉子(日本薬史学会会員)

(概要)奥田潤先生とのインドでの出会いと回顧、インドでの研究報告

演題③：「生薬の効能別分類法の歴史」

○牧野利明(名古屋市立大学大学院薬学
研究科生薬学分野)

(概要)ISO(国際標準化)の方向性の解説、生薬の基原、漢方薬には効果がないが、処方には効果がある。

令和7年度(2025年度)の例会(演題募集と参加依頼について)

令和7年度の例会を令和8年2月21日(土)「ウインクあいち 1106」にて開催を予定しています。ご発表予定の方は、12月末までに、事務局までお知らせください。皆様のご参加をお願い致します。なお、飯田事務局長は名城大学を退官されましたので、下記までお願いします。

事務局：中部支部 (仮)森田宏

〒501-6195 岐阜県各務原市川島竹早町

内藤記念くすり博物館内

電話：0586-89-2101

会員の皆様へ

薬史レターへのご寄稿をお待ちしています(掲載は無料です)。

バックナンバー、投稿のヒントは学会HPをご覧ください。

また、eBook紹介、薬史往来、その他学会活動についての寄稿も歓迎いたしております。

なお、投稿は会員特典ですので、会員外からは受け付けておりません。

<https://plaza.umin.ac.jp/yakushi/publication/letter/>

海外の薬史学会の今(15) オーストリア

国際委員会 但野恭一

昨年ベオグラードで開催された第46回国際薬史学会において、来たる「第47回国際薬史学会」をオーストリア薬史学会が主催し、2026年9月2日～5日にインスブルックで開催することについて発表する榮譽が得られたことをうれしく思います。第47回国際薬史学会の特徴は、持続可能性と環境に配慮した科学交流へのコミットメントを強調する「Green Event」に指定されており、私たちはこの重要な機会を心待ちにしています。

なお、今年初め、会長の Dr. Andreas Winkler が突然、予期せぬ逝去をされ、私たちは深い悲しみに暮れました。薬学史への揺るぎない献身と、当学会への計り知れない貢献は、私たちの記憶に深く刻まれることでしょう。その間、Dr. Heinrich Evanzin

がオーストリア薬史学会の会長に就任し、2026年の国際薬史学会の準備を引き続き主導します。インスブルックで開催される第47回国際薬史学会は特別な意義を持っており、国際薬史学会創立100周年を記念するだけでなく、Winkler家の少なくとも2名の著名な人物に捧げられる記念行事でもあります。オンライン登録は今夏開始される予定です。

今年は、ウィーンで開催された欧州薬学連盟(EUFEPS)プレシンポジウムにオーストリアから2つの注目すべき発表を行い、国際的な学術協力への継続的な取り組みを強調しました。2025年が実り豊かで成功に満ちたものになることを期待しており、2026年にインスブルックで開催される学会への皆様のご来場を心よりお待ちしております。

薬史往来で紹介されている長野哲雄先生の総会講演録は薬史学雑誌に掲載予定です。

また、東京大学の発掘調査については、下記に収載されています。

東京大学では、発掘調査対象は原則として江戸期以前のものを対象とし、明治期以降のものは通常、重機で破壊され、産業廃棄物になってしまうとのことですが、医学部薬局基礎については、明治時代の建築・産業の解明に重要なものとして、特別に調査報告書が作成され、一部保存がなかったとのことです。

東京大学構内遺跡調査研究年報4(2000・2001・2002年度)

東京大学埋蔵文化財調査室

11. 薬学部総合研究棟地点発掘調査略報 p.85-91

<https://www.aru.u-tokyo.ac.jp/img/nenpou4.pdf>



東京大学構内遺跡調査研究年報6(2006年度)

東京大学埋蔵文化財調査室

東京大学本郷構内の遺跡 薬学系総合研究棟地点(2002年度)
で検出した医学部薬局の基礎 SB10についての考察 p.209-212

<https://www.aru.u-tokyo.ac.jp/img/nenpou6.pdf>



(齋藤充生)

模範薬局の遺構を見て、 病院薬剤師の過去に想いをはせる

五位野政彦

私は病院薬剤師です。ここ10年ほどは精神科医療を中心に病院薬局、病院薬剤師の歴史調査を行っています。

過去に私は日本病院薬剤師会関東ブロック第50回学術大会(2020)で、明治時代にあった東京病院薬剤師協議会という団体のことを報告しました。この内容は2023年に薬史学雑誌でノートとして掲載されています。その研究調査の過程で、この東京病院薬剤師会の中心は模範薬局(現東京大学医学部附属病院薬剤部)であったことがわかりました。また東京の病院薬剤師協議会から薬剤師を日本各地に派遣し、各県で近代薬学を導入した病院薬剤師を育てたのも模範薬局であったということを明らかにしました。そこで追加の調査研究を行い2023年の日本薬学会第143年会(札幌)で模範薬局の歴史を年表の形式で報告しております。

しかしこの報告後に勤務先の定年ほかプライベートなこともあって「模範薬局」のことから離れてしまっていました。

去る2025年4月19日に行われた公開講演会は、私にもう一度「模範薬局」への興味の道を開いたものでした。そのきっかけは長野哲雄先生のご講演「東大模範薬局はどこにあったのか？」

です。この60分の講演を拝聴し、あらためて自分の研究として日本における近代薬学導入における病院薬剤師の役割がどのようなものであったのかを見出さなければならない、と強く感じたのです。「模範薬局のことをひろく薬剤師に示さなければならない」。

その折別途齋藤充生常任理事から東京大学内の遺構調査に関する資料をいただきました。その中には、東京大学から本郷三丁目駅に向かう出入口の脇にある赤レンガが模範薬局の遺構であることが示されていました。いままで何度も見ていて特に気にもしなかったものが、実は丹羽藤吉郎などがまさにそこにいた建物の一部であったのです。身近にあった「気にも止めない赤レンガ」のなかに、明治大正時代の病院薬剤師の息吹があったことに気づきました。

あらためて私の札幌年会での発表資料を見てみますと、模範薬局は現在の薬学部を中心地にあったこともわかります。その模範薬局のあった場所で今回の講演会を聞くことができたことは、赤レンガの遺構のことを知ることができたこととともに、私が研究対象とした模範薬局との因縁というものを感じています。

日本薬史学会編集委員会

編集委員長：齋藤 充生

編集委員：赤木 佳寿子 武立 啓子 牧 純

薬史レター 第95号

2025年9月

編集人：齋藤 充生 発行人：船山 信次

日本薬史学会 The Japanese Society for the History of Pharmacy (JSHP)

〒113-0032 東京都文京区弥生2-4-16 (一財)学会誌刊行センター内 日本薬史学会事務局

tel : 03-3817-5821 fax : 03-3817-5830 e-mail : yaku-shi@capj.or.jp

<https://plaza.umin.ac.jp/yakushi/>

所属先、住所、アドレスなどの変更が生じた場合には、学会事務局へ必ずご連絡ください